

# 令和 8 年度 学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	16	学校名	県立水戸第二高等学校				課程	全日制		学校長名	正木 昇					
教頭名	茂又 孝裕			塩谷 直人			事務(室)長名			横山 弘美						
教職員数	教諭	53	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	5	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	4	技術職員等	4	計	71
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通科		0	320	0	315	0	309	0	0	0	0	944	24		

## 2 目指す学校像

民主的な国家及び社会の形成者にふさわしい資質・能力を身に付け、社会の中核として活躍する、心豊かな人間の育成

## 3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ol style="list-style-type: none"> <li>幅広い教養としなやかな知性を身に付け、自ら考え本質を見抜く力を磨くことで、これからの時代を切り拓く力を育成します。</li> <li>社会の多様性を肯定的に受け止めるとともに他者を思いやり、命や人権を尊重する、心豊かな人間を育成します。</li> <li>協働学習、探究活動、部活動、学校行事等を通して、社会の中核として活躍するための高度なコミュニケーション能力を育成します。</li> </ol>
---------------------------------------	--

別紙様式 1 (高)

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 新たな時代を創り、社会に必要とされる、自らの意志で学ぶ力と、人生をより豊かに生きる力を育成します。</li> <li>2 ICTを活用し、他者につながり高め合う協働的な学び合いを推進し、“Society5.0”社会で求められるICT活用能力を身に付けさせます。</li> <li>3 探究力を育む教科等横断的・融合的授業や課題解決型授業の実践を通して、課題発見・解決能力の向上を図ります。</li> </ol>
<p>入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の歴史ある校風や教育目標に共感し、主体的に教育活動に取り組む熱意ある生徒を募集します。</li> <li>2 豊かな人間性と社会性を身に付け、社会の中核を担い活躍したいという志を持つ生徒を募集します。</li> <li>3 自他の個性を尊重し、集団の一員として積極的に他者と協働して学ぼうとする姿勢を持ち、自ら考え自治的に行動できる生徒を募集します。</li> </ol>

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	<p>○家庭における学習時間が不足し、学習習慣が十分に定着していない生徒が見られる。</p> <p>○授業において指示待ちの傾向が見られるなど、受動的な学習姿勢が増加している。</p> <p>○学習内容の理解に個人差があり、基礎基本の定着が不足している生徒と発展的学習を志向する生徒の二極化が見られる。</p>	<p>○学習習慣の定着を図るため、家庭学習の質・量の向上に向けた指導体制の構築が求められる。</p> <p>○主体的な学習態度を育成するため、授業改善および課題設定の工夫が求められる。</p> <p>○個々の学力差に対応するため、基礎基本の定着と発展的学習の両立を図る指導の充実が必要である。</p>

別紙様式 1 (高)

項目	現状分析	課題
進路指導	<p>○1 学年から 3 学年まで進路に関する行事が充実しており、生徒は自らの興味や適性を見出す機会を得るとともに、具体的な選択肢を考えるきっかけとなっている。</p> <p>○『進路資料』を作成・配付することで、最新の入試動向や進路実現に向けた過去の取り組み等を生徒・保護者に周知するよう心掛けている。</p> <p>○国公立大学への現役合格者は 10 年連続で 100 名を超えている。</p>	<p>○進路に関する数多くの情報を効率的に収集・整理・発信する必要がある。</p> <p>○年内入試（学校推薦型選抜・総合型選抜）が拡大していることを踏まえ、教員間で共通理解を図りながら、指導体制を構築していく必要がある。</p> <p>○個別試験対策を意識させる必要がある。</p>
生徒指導	<p>○基本的な生活習慣や態度が身に付いている生徒が多い。安心安全で落ち着いた学校生活ができている。しかし、登下校時の歩き方や自転車の乗り方についてご意見をいただくこともある。(R7 は 2 件)</p> <p>○スマホ家庭のルールづくり運動において、犯罪に巻き込まれる危険もあるネット上のみの付き合いの人と情報のやりとりをしたことがある生徒は減少傾向にある。</p> <p>○不登校生徒が増加傾向にある。</p>	<p>○マナーアップ運動・学期毎の全体指導・登校指導を行う。</p> <p>○スマホは非常に便利であるが、犯罪に巻き込まれる機会も増している。自らの命、他者の命を互いに尊重し合える力を養い安全にスマホを活用する必要がある。</p> <p>○多様性を認め合いお互いを尊敬できる人間関係を構築する必要がある。</p>
特別活動等	<p>○80%を超える生徒が部活動・同好会に参加している。積極的に活動を継続している。</p> <p>○生徒会活動、リーダー研修会をはじめ多くの自主的活動に積極的に関わっている。</p>	<p>○学習と課外活動の両立を目指し、学習計画の立て方、学習の仕方、計画の修正の仕方を身につけさせる必要がある。</p> <p>○生徒一人ひとりが、問題点や工夫の仕方を発見し実践力を身に付けさせる。</p>

別紙様式 1 (高)

項目	現状分析	課題
働き方改革	<p>○「協働的な学び」の実践や「探究力を育む授業」、「国際理解教育」の実現等、教育課題が多岐にわたり、担当者への負担が増加している。また学校行事や部活動も盛んであるため、勤務超過に陥りやすい。</p> <p>○ICT の効果的活用により業務の効率化を図り、時間外勤務時間の縮減に努める必要がある。</p> <p>○令和 7 年度の本校の時間外在校等時間が 45 時間以上の教職員は 4 月 6 名、5 月 5 名、6 月 9 名、7 月 5 名、8 月 0 名、9 月 4 名、10 月 5 名、11 月 0 名、12 月 1 名、1 月 0 名、2 月 0 名、3 月 3 名、年間のべ 38 名であった。令和 6 年度の延べ人数の 67 名からはかなり改善されたがまだ 45 時間以上ゼロには至っていない。</p>	<p>○教育効果を落とさずに、いかに業務の精選、見直しをするかが課題である。各部署で削減できる業務を具体的に洗い出す必要がある。</p> <p>○会議資料や保護者宛通知等におけるペーパーレス化によって、事務効率をさらに向上させる。</p> <p>○外部機関・人材を活用することで、教員の ICT 機器の利活用が円滑に進むようにする。</p> <p>○6 月と 10 月は行事や進路指導、部活動の大会が増える時期は、どうしても時間外在校等時間が増える。それ以外の時期は時間外在校等時間が減らせるように事業計画を立てる。</p>

5 中期的目標

学校が生徒にとって、様々な力を身に付ける場所となるように、学校全体で「主体的・対話的で深い学び」への授業改善を実現し、生きる力を育む、キャリア教育の推進を図る。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 豊かな人生を切り拓く、学びに向かう力、人間性の育成	(1) I C T機器(タブレット、電子黒板等)を活用した、協働的な学び合いの推進 (2)探究力を育む教科横断的・課題解決型授業の実践 (3)学びに向かう力を高める、主体的・対話的で深い学びの推進 (4) S T E A M教育の視点に立った S S H推進による、未来を担う創造性豊かな科学技術人材の育成 (5)自主的・能動的な学びの推進 (学習支援体制の構築、学習動画の活用等)
2 生きる力を育む、キャリア教育の推進	(1)進路希望を実現する、個別進路指導(個別面談)の充実 (2)思いやりや助け合いの心を育成する社会奉仕体験活動の推進 (3)豊かな人間性と社会性を身に付けるための特別活動の充実 (4)社会のリーダーとして活躍するための、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の育成 (5)グローバル社会で活躍する人材を育む、国際理解教育の推進(海外研修の充実)
3 生徒が安心して学べる学校づくり	(1)自律的で責任ある生活習慣の確立 (2)一人一人の悩みや不安に寄り添う教育相談体制の充実 (3)心を育てるグループワーク等を活用した温かな心の育成とよりよい人間関係の構築 (4)校内安全点検の徹底及び危険箇所の早期発見 (5)自然災害避難時等における安全計画の再確認及び危機管理意識の徹底
4 地域とともにある信頼される学校づくり	(1)地域の小・中学校等と連携した教育活動の展開 (2)ボランティア活動や部活動を通じた地域行事への積極的な参加 (3)保護者や学校評議員等との緊密な連携 (4)地域関係機関の連携による、地域と一体感のある学校づくり
5 働き方改革の推進	(1)勤務時間の管理と適正な勤務時間の設定及び勤務時間削減に向けた取組 (2)業務の役割分担と適正化にむけた P D C A サイクルの構築 (3) I C T 機器を活用した業務の効率化

別紙様式 1 (高)

重点項目	重点目標
	(4) 同僚性の発揮と組織で動く意識の徹底
6 授業改善の推進	(1) 授業力向上のための相互授業参観の開催 (2) ICT活用スキルアップのための他校・他校種への視察を実施 (3) 生徒の授業アンケートを実施（肯定的回答 60%以上を目標とする）
7 生徒募集	(1) ホームページ、SNS、新聞等の多様なメディアの特性を活かして本校独自の教育活動や特色を迅速かつ効果的に発信する広報体制の構築・充実。 (2) エビデンスに基づく学校説明会の質の向上、より訴求力の高い、効果的な学校説明会の企画・実施。 (3) 校内組織を基盤とし、現在ある本校の魅力をさらに磨き上げるとともに、組織的な検討を通じて次代を見据えた新たな強みの創出。